

令和元年度第1回 新潟市子ども・子育て会議子ども・子育て支援ネットワーク部会
会議概要

開催日時	令和元年8月6日（火）午後1時30分～午後3時30分
会場	市役所分館6階 1-601会議室
出席委員	阿部委員、大竹委員、菊池貴子委員、菊地千以委員、小池委員、佐藤委員、椎谷委員、長谷川雅之委員、福士委員、平田委員、横尾委員（出席11名、欠席1名）、中嶋オブザーバー
事務局関係課出席者	こども政策課長ほか同課より5名、こども家庭課長ほか同課より2名、保育課長ほか同課より3名、児童相談所より1名、教育総務課より4名、株式会社ジャパン総合研究所職員1名
傍聴者	2名
内容	<p>【議事】</p> <p>（1）「第2期新潟市子ども・子育て支援事業計画」の策定について</p> <p>○事務局より計画の策定について概要と部会の所掌事務等について説明を行いました。</p> <p>○委員からは特に質問や意見はありませんでした。</p> <p>（2）第2期新潟市子ども・子育て支援事業計画にかかる量の見込み及び方向性について</p> <p>○事務局より対象となる事業の概要、取り組み状況、現状・課題、今後の方向性、量の見込み算出の考え方等について説明を行いました。</p> <p>○委員からは主に次の意見・質問がありました。</p> <p>＜妊娠・出産サポート体制整備事業（利用者支援事業）＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「妊娠・子育てほっとステーション」が各区役所（行政）にあると、身近な窓口とは感じない。 ・出生届時に様々な支援情報のチラシを配布されるが、他の手続き等で手一杯で目を通しきれない。スマートフォン等でいつでも手軽に確実な情報にアクセスできるような工夫を。 ・行政だけの利用者支援事業は役割が限定的だと思う。NPOや民間団体と連携を深め、継続的な支援体制のパッケージをつくるような工夫を。 <p>＜こんにちは赤ちゃん訪問事業＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民生委員、児童委員などの地域の人材の活用を。赤ちゃん訪問時などに、地域の民生・児童委員を紹介するなど、行政には家庭と地域人材をつなぐきっかけづくりをしてほしい。

<p>内容</p>	<p><病児・病後児保育事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・病児保育の充実は評価するが、子どもが病気のときには預けて仕事に行くのではなくできるだけ仕事を休めるような環境になるよう、企業や事業者にはたらきかけていくべき。 ・単に病児保育室の施設数を増やしていくことには反対。適切な医療・看護の必要があるため、数だけでなく質も高めるべき。 <p><地域子育て支援拠点事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・育休取得後仕事復帰するお母さんが増え、それに伴い利用者は0歳～1歳児が増えている。 ・利用者からもっと早くから支援センターのことを知りたかったという声があるので、妊娠期から情報提供や見学・参加できるような取り組みがあるとよいのでは。 ・赤ちゃんの利用が増えている中で、乳児と幼児が安全に一緒に過ごせるよう配慮・工夫が必要。 <p><ファミリー・サポート・センター事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度からファミサポ提供会員による病児の代理受診が可能になったが、今のところ、利用実績がない。もっと周知に力を入れるべき。 ・実際にファミサポを使わなくても、念のために依頼会員になっている家庭が多い。いざというときのための安心感に寄与しているのであれば、それでもよいと思うので、今後も提供会員が増えていくようにはたらきかけてほしい。 <p><子育て短期支援事業（こどもショートステイ）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状では2歳までの受け入れとのことだが、3歳以上のニーズもあるはず。 <p><養育支援訪問事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用回数に一律の上限があることに疑問。各家庭の状況に応じて回数を設定できるようになるとよい。
-----------	--